

6次産業化検討委員会立上げ！ 第1回検討委員会が開催されました。

いよいよ6次産業化に向けた検討委員会が立上げられました。組合員の中から選ばれた6名と本店からの3名の9名による6次産業化実現に向けた協議が始まりました。去る5月13日に第1回目の検討委員会が開催され、まず代表から検討委員会立上げの要旨説明、農地取得に関する申請、2号法人認定への進捗状況が説明されました。この農地とは加工施設建設用地であり、既に広尾東地区内の農地取得が決定しております。(写真右)

今後のスケジュールとして加工施設の規模等詳細を決定し、6次産業化の計画認定を受けるため、6次産業プランナーのサポートを受けながら綿密な計画を立てていきたいと思えます。今後、毎月1回の検討委員会を予定していますが、協議内容については理事会にて随時報告します。組合員のみなさんへは、各支店理事、監事からと、くみあいだよりの紙面にてご報告させていただきます。



加工施設の建設予定地(広尾東)

地域の雇用の増大、女性労働力の活用等、経済の活性化に繋がる事業が展開できるよう検討委員一同頑張ります。今後ともよろしくお願ひ致します。



小麦の収穫終える！

今年も天候にも恵まれ例年になく各支店とも豊作が期待できそう。あとはゆめちからの収穫を待つのみとなったが、こちらも出来栄は良さそう！

新品種(小麦)の収穫終わる！



シロガネ小麦に代わる新品種、中国167号・ニシハルカの2品種を東播磨農業改良普及協議会より依頼を受け、試験圃場(広尾東支店)にて栽培しました。今後2年間試験栽培を続け、その結果をみて採用するかどうか決定されるそうです。

「綿花の播種」イベント開催！

5月20日に大沢支店圃場にて、市の広報誌を見て応募された方、各支店から参加された方と市の職員の総勢約50名によって種まきが行われました。約40aの広い田にも関わらず見る見るうちに作業を終えることが出来ました。秋の収穫が楽しみです！



親子づれの参加者も多かった



5月28日
蜂蜜採取のイベントが開催されました！
—志方健やか米—
栽培予定田にて



●蜂蜜を採取しているところ



●ヘアリーベッチについての説明

事業報告(3月~5月)

3月

- ・ヘアリーベッチ蜂蜜検討会出席
- ・綿花栽培の基礎勉強会(しろやま農業研修センター)
- ・広島県世羅町集落営農協議会視察研修のため58名来訪(しろやま農業研修センター)
- ・綿花栽培田に防草シート設置
- ・第8回通常総会開催
- ・麦栽培圃場巡回研修参加(稲美・八幡・山中・志方東)

4月

- ・県民局農林水産振興事務所へ総会議案書及び議事録提出
- ・農業経営改善計画認定申請書提出(市農林水産課)
- ・地主と農地売買契約締結
- ・綿人づくり事業の一環として綿の種取り、糸紡ぎ研修実施
- ・貸農園現地説明会実施
- ・第1回小麦種子圃場審査(細工所支店)
- ・貸農園開園式

5月

- ・「農地所有適格法人」認定申請書提出(市農林水産課)
- ・農地法第3条申請書提出(農業委員会)
- ・「志方地区の農業振興を考える会」出席(JAしかた支店)
- ・小麦栽培農地全筆現地確認
- ・農地所有適格法人申請の開取り調査(農業委員会)
- ・6次産業化検討委員会発足
- ・小麦奨励品種決定調査「ニシハルカ」・「中国167号」圃場視察(広尾東支店圃場)
- ・綿花播種イベント開催
- ・市農業団体長会総会出席
- ・蜂蜜採取イベント開催(しかた支店ふれあいイベント)
- ・第2回小麦種子審査(細工所支店圃場)
- ・農地所有適格法人・農地法第3条所有権移転審査完了

大宗支店



今年の大沢支店の作付は、シロガネ小麦3.64ha、ゆめちから86.6a、ヒノヒカリ98.8aを予定しています。シロガネ小麦の収穫は、6月9~10日で終わり、ヒノヒカリの田植え、ゆめちからの刈取りを順次作業予定です。近年、高齢の組合員の離農により、営農組合の作付面積が増えてきているため、構成員の人材育成が急務です。

野尻支店



野尻支店は、北は城山ゴルフ場、南は権現湖、東西は播磨自然公園の山々に囲まれ風光明媚なところです。営農としての特長は田畑への水の供給は権現湖の水をポンプにより行っています。支店としては、現在小麦とそばを生産しています。品質の良いものを生産すべく日々頑張っています。

支店だより

行常支店

3月末に菖蒲池の樋止めを行いました。今年度の稲作の始まりです。水害もなく豊作を祈って樋を閉めました。



東中支店

東中支店では、麦は営農、水稲は個人管理であり耕作放棄田が増える傾向にあります。耕作放棄田を営農組合で作付しようとしておりますが、話し合いを2度しましたが、営農引受けにあたっては個々の状況もあり結論が出ていない状態です。今後も放棄田解消に向けての話し合いを継続させ、問題の解決を図って行きます。6次産業化にも協力していきます。

大沢北支店



大沢北支店の組合委員の就農状況は、高齢化による離農者、後継者と同居されていますがその後継者が農業を行わない、又組合員が亡くなられ相続人がすべて遠隔地に居住されているなどにより17名(63%)が離農され、残りの組合員は会社等に勤務されているため農作業への従事も限定され、また、離農予備軍的な組合員もおられ農作業の確保が非常に難しい。そのため現在はコシヒカリとシロガネ小麦だけを栽培しています。しかし今後はヘアリーベッチによる大豆の栽培も検討しています。
★大沢地区の一番大きなため池にパイオファンを設置して水質の浄化を行っています。

支店だより

行常支店

行常支店では、元気の良いシニア作業員が少ない。その為に組合員全員でのいろいろな作業が出来ない。特に草刈り作業は、作業ペースが遅すぎる。各自の能力に合った作業分担を行っているのが現状です。現役会社員と元気の良いシニア作業員に負担が集中しています。作業方法改良や新しい機器を導入して、安全で将来安定した作業が出来るようにしなければならない。行常の米はおいしい。そう思って米作りをしています。しかし、現状は、収穫量が多いほど収入が多い。

味の良い米で収穫量が少なくても収入が増えるように志方東営農組合やJAで協力して下さい。量より質を求めても良いのではないかと。

広尾西支店

広尾西支店は、米と麦、それにキャベツの栽培を経営の柱とし、大豆、カボチャ、蕎麦、綿花、ニンニク、レンコンなど原価われに神経を尖らせつつも多品種の野菜作りに果敢に挑んでいます。また、近年は行政の支援のもと、農水路、農道等を維持管理するための活動にも取り組み、山裾の雑木林の伐採、農道の草刈り、それに里山の保全活動にも力を注いでいます。メンバーは20歳代から70歳代と幅広く、2名の女性を含む14名が中心となって活動を行っています。作業は、必ずしも楽なものではありませんが、強制されるものではなく各自が出来る範囲内で協力しながら和気あいあいとこなしています。楽しみながら体を動かし、地域の景観保全に貢献、仲間の親睦も深まって、健康維持には抜群です。これからも安全第一で頑張りましょう。

高畑支店

高畑支店は稲作に関しては「田植え」「刈取り」、麦作に関しては「播種」「刈取り」、麦あとの「堆肥の深耕」等の作業は、従来通り募集により出役を決めています。「田植え」は苗出し2名、軽4輪での運搬2名、田植え機オペレーター2名の軽6名で作業をしています。今年は昨年とほぼ同じ苗箱1650枚を苗代田で管理していますが、時々サギ等の鳥で5箱～10箱程度被害が発生します。稲も麦も「刈取り」は運搬2名（リースダンプ2台）とオペレーター2名（コンバイン2台）計4名です。今年は雨が少なく麦の刈取りは無難に終了しました。高畑は、稲作は法人と個人があり法人の出役は土曜日、日曜日は多いが平日は出役者が少なく大変です。毎年稲作13町、麦作15町の大面積の消化はつかれます。

★今回は一部の方に当営農組合への思いをお聞きしました。今後はもっと多くの組合員さんからの意見をお聞きし、次回のくみあいだよりに掲載したいと思えます。

ご意見のある方は当営農事務所までよろしくお願い致します。

FAX : 079-452-6805

E-mail : sikatahigasi@lion.oc.ne.jp

組合員の声



大宗支店よりの声

今の支店の統廃合を進める必要があり、2ブロック位にする必要があり各支店から選抜された人員により運営するようにする。あくまで農業の年間作物のローテーションを作成し、隙間のないようにすることが第一の目標にするべきで、米、麦のみでは維持できない。

農作業の人手が必要な場合、現支店の組合員が協力して作業を行う。各支店の高齢化対策が必要であり、若い組合員の参加が必要です。どのような方法があるか研究すべきである。人材がなければどのような計画も実行できない。

野尻支店よりの声

現在法人運営に際し、高齢化が進み、運営ができなくなる可能性は大です。そこで以下を提案します。

1. 企業と提携し安定農業を図る。
2. 海外へ志方産農産物を輸出する。(他県では、JA職員がリーダーシップを図り活動している)
3. 特産物を造り出す。

大沢北支店よりの声

志方東営農法人化9年目を突き進む中、設立当初、農業の発展と継承するための担い手不足に対処するためとなっていたと思う。色々な施策により進展・発展はしていると思うが担い手の育成が進んでいないように思える。逆に次世代の担い手が育っている支店は羨ましくも思える。担い手が増えるよりリタイア・離農される方が多く、結果的に限られた少人数での対応になってきている。コスト面からみるとそれは必要最小限とみなし、メリットがあるように見えるが当事者（作業員）にとっては負担増でしかない。よく聞く言葉で営農任せという言葉がある。きれいな言葉ではあるが一面酷な言葉でもある。

我々は組合員であるとともに、地域住民でもある。農業で発展するのもよいが暮らしの中に溶け込んだ農業を、田畑の景観、維持及び保全に勤め、この地域に確かな明日（未来）が来るように、現状・現実を踏まえ、今できること、すべきことを実行に移して行きたいと思う。

広尾東支店よりの声

現在、6次産業化を目指して協議されていますが、まずはヘアリーベッチを肥料として栽培した白大豆、志方健やか米を原料にした味噌づくりを考えているようです。特に女性の労働力が必要な事業として、今までになかった新しい展開が出来るように楽しみにしています。今後は完成した加工所を起点に味噌づくりだけに留まる事無く、いろんなイベントを開催し多方面から集客出来るよう頑張ってください。営農組合のホームページもよく更新されていますが、もっと話題性の高い、興味をそそられる様な内容で画面を一杯に出来たらいいと思います。みなさんにもっと志方東営農組合を知ってもらい、この素晴らしい環境のもとでの農業に関心を持ってもらったら、おのずと若い人で就農を希望する人が出てくると思います。志方東営農組合！地域活性のために頑張れ！（焦らず、ボチボチとネ）

東中支店よりの声

先祖から引き継いだ里山の風景や自然は大切な物と考え、日頃の活動に取り組んでいます。しかし、営農組合員の高齢化が進んで来ているのが現状です。次世代に引き継いで行くためにも若い人の参加が必要だと思えます。なかなか難しい事ですが。

